

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2017年11月6日～2017年11月12日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成29年11月27日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ナウル大統領のアブハジア訪問(12日)

・ワンガ・ナウル大統領が国会議員、スコット保健・教育相、デュビ大統領補佐官、モウゼス・ナウル国連常駐代表らとともにアブハジアを訪問。アブハジアのメディアによれば、「ワ」ナウル大統領はハジンバ「アブハジア共和国大統領」、コヴェ「アブハジア共和国外相」らとの会談を行なった。会談で、「ワ」ナウル大統領は、「アブハジアの独立承認以降、我々は米国およびジョージアから大きな圧力を受けた。賄賂の申し出もあったが拒否した。我々が方針を変えることはない」と述べた。また、「ワ」ナウル大統領は、ナウル国会および政府での議論で、アブハジアの独立承認の撤回に関する提案もあったが、「自分は承認の決定を守るよう説得した」と述べた。

2. 外 政

▼ウクライナ副首相兼社会政策相のジョージア訪問(7日)

・ロゼンコ・ウクライナ副首相兼社会政策相がジョージアを訪問し、クヴィリカシヴィリ首相と会談。「ロ」ウクライナ副首相は、保健・社会保障および国内避難民の支援に関するジョージアのプログラムはウクライナにとって興味深く、重要であると述べた。双方は、両国が直面する共通の問題について議論し、相互の領土一体性・主権に対する支持を確認した。

▼大統領のポーランド訪問(7日―9日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領がポーランドを訪問し、ポーランドのドゥダ大統領、クチンスキ下院議長、カルチェフスキ上院議長、シドウォ首相らと会談。会談では二国間関係、安全保障面での協力、東方パートナーシップ首脳会議などについて議論された。「ドゥ」ポーランド大統領との会談では、ジョージアのEU・NATO加盟に向けて協力を強化することで合意。

・9日、「マ」大統領はワルシャワ安全保障フォーラムに出席。ジョージアとウクライナの事例を引きつつ、ロシアに対して立ち上がるよう欧米諸国に呼びかけ、ロシアの侵略的な動きに適切に対応しなければ、ロシアの近隣地域をはるかに超えた範囲で深刻な問題が起きるだろうと述べた。

▼欧州対外行動庁・欧州委員会の報告書(8日)

・欧州対外行動庁と欧州委員会がジョージアとの連合協定の進捗に関する報告書を発表。報告書は、「改革努力の

継続とEUとの更なる関係の発展の追求により、ジョージアは地域における(EUの)主要な戦略的パートナーとしての地位を固めた」「DCFTAを含む、連合協定に関連する課題の実施は概ね合意されたペースで進んでいる」と評価。

・モグリーニEU外交・安全保障政策上級代表は、「幾つかの重要な分野において更に行なわれるべき取り組みに対し、EUは支援を続ける」と述べた。

・ジャンネリゼ外相は、「報告書はジョージアの国家機関の能力の強化とEUの技術的規制・基準への漸次的な接近における政府の大きな成功を認めている」として、報告書を歓迎すると述べた。

▼欧州評議会の報告書(8日)

・ヤグラン欧州評議会議長が2017年4月から2017年9月にかけてのジョージアにおける紛争に関する報告書を発表。状況は概ね安定しているとしつつ、アブハジア・南オセチアにおいて自由な往来や教育などに関して、ジョージア人住民に対して課されている様々な制限により、憂慮すべき人権・人道状況が継続していると記している。紛争の影響を被っている人々に対する国際的な関与をより容易にするため、ジョージアの「被占領地域に関する法律」の改正の必要性を指摘。

▼国防相のブリュッセル訪問(8日―9日)

・イゾリア国防相がブリュッセルで開催された Resolute Support ミッション参加国の国防省会合に出席。会合後、「イ」国防相は、会合でミッションに対するジョージアの貢献が強調されたとして、870名のジョージア軍兵士は世界の安全・安定を保障するためNATO諸国・パートナーとともに活動を継続すると述べた。

・ストルテンベルグ NATO 事務局長は、ミッションの規模を現在の13,000人から16,000人に拡大すると発表。

▼ジョージア国会議員のOSCE議員会議議長就任(9日)

・ムットネン OSCE 議員会議議長の辞任に伴い、ツェレテリ議員(自由のための運動・欧州ジョージア)がOSCE議員会議議長に就任。

・「ツェ」議員は1999年の国会選挙で初当選。2000年から2004年および2008年から2012年まで国会副議長を務めた。現在、国会内の自由のための運動・欧州ジョージア会派の代表。2012年からOSCE議員会議の副議長を務めていた。

3. 内 政

▼地方選挙の決選投票(12日)

・クタイシ市市長選挙およびボルジョミ地区、カズベギ地区、ハシュリ地区、マルトヴィリ地区、オズルゲティ地区の地区長選挙の決選投票が行なわれた。12日夜に中央選挙委員会の発表した暫定結果によれば、オズルゲティ地区では無所属の候補者が与党候補者を僅差で下した。他の市長・地区長選挙では与党の候補が勝利。投票率は33.24%。

▼元警官に対する有罪判決(7日)

・2011年10月に当時野党勢力であった「ジョージアの夢」の支持者2名を不法に逮捕したとして起訴されていた統一国民運動の政治評議会委員オニアニ氏に対し、トビリシ市裁判所は有罪を認め、4年6か月の禁固刑を言い渡した。「オ」氏は事件当時トビリシ市のグルダニ・ナザラデヴィ地区警察署副署長であった。

・統一国民運動および自由のための運動・欧州ジョージ

アは「政治的報復」であるとして判決を批判。

4. 経 済

▼EBRDの経済成長予測(7日)

・欧州復興開発銀行(EBRD)は最新の報告書で2017年と2018年のジョージアの経済成長率を4.5%と予測。2017年と2018年の予想をそれぞれ0.6%、0.3%引き上げた。EBRDによれば、予測経済成長率の引き上げは、輸出および観光分野の著しい成長を考慮したものの。

▼通貨ラリの減価(11日)

・米ドル、ユーロなどに対するラリの減価が進行。11月11日には1米ドル=2.6499 ラリ、1ユーロ=3.0882 ラリをつけた。過去1か月間でドル、ユーロに対しそれぞれ6.9%、5.7%減価した。